

会 議 録

会議の名称	第3期 小金井市地域自立支援協議会（第4回）
事務局	福祉保健部障害福祉課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成24年10月30日（火） 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>高橋智委員(会長)、矢野典嗣委員（副会長）、鈴木日和委員、森田純司委員、中村悠子委員、秦郁江委員、馬場利明委員、赤木敏一委員、森田史雄委員、ボーバル聡美委員、堀池浩二委員</p> <p>【事務局】</p> <p>障害福祉課障害福祉係長 藤井知文 障害福祉課相談支援係長 高田明良 障害福祉課障害福祉係主任 北村奈美子 地域生活支援センターそら 伊藤奈保子</p>
傍聴の可否	可
傍聴者数	1人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

第3期 第4回小金井市地域自立支援協議会 議事要旨

日時：平成24年10月30日(火) 14:00～16:00

場所：前原暫定集会施設 A会議室

出席者：協議会委員 11名

障害福祉課障害福祉係長

障害福祉課相談支援係長

障害福祉課障害福祉係主任

地域生活支援センター そら

配布資料 1： 第3期小金井市地域自立支援協議会委員名簿（資料1）

2： 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律の概要（資料2）

3： 防災・災害対策を考えるために（資料3－1～3）

4： 〃 （資料4）

5： 〃 （資料5）

6： 〃 （資料6）

7： 府中市災害時用 救急医療情報キット

8： 救急医療情報キット活用マニュアル 府中市

9： 災害対策を考える（馬場委員）

10： 多摩府中保健所の資料（秦委員）

1. 開会

事務局 (藤井係長)	・開催にあたり、配布資料の確認。 ・大久保委員より、欠席の連絡が入っている。また、中村委員より、遅刻の連絡が入っている。
---------------	---

(1) 委員挨拶

事務局 (藤井係長)	・資料1を確認してほしい。欠員となっていた障害者団体の委員選出区分についてお知らせする。身体障害者福祉協会より、赤木敏一氏のご推薦をいただいた。委員の委嘱を10月1日付で行ない、協議会へは今回より出席いただくこととなった。 ・赤木委員より、ご挨拶をお願いしたい。
赤木委員	・身体障害者協会の第2期の委員に変わり、本日より参加させていただく。 ・これまでの資料すべてに目を通した。その中で障害のある人が会議へ参加するということが必要だという意見が出されていた。私自身もそのように感じている。障害のある人の気持ちを代弁するような形で協力していきたいと思っているので宜しくをお願いしたい。
事務局 (藤井係長)	・指定相談支援事業者枠で小金井市精神障害者地域生活支援協議会からの推薦で出席していた熊倉委員が10月20日付で「地域生活支援センターそら」を退職した。その関係で、現在のところ委員1名が欠員となっている。

(2) 虐待防止法の施行について[報告]

事務局 (藤井係長)	・虐待防止法の施行について、障害福祉課の堀池委員より報告させていただく。
堀池委員	<p>・資料2「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律の概要」を参照。経過について簡単に説明させていただく。</p> <p>・目的を確認していただきたい。平成23年6月17日議員立法により可決し、平成24年10月1日より施行となった。</p> <p>・障害者の虐待として、①養護者による障害者虐待②障害者福祉施設従事者等による障害者虐待③使用者による障害者虐待の3つをいう。</p> <p>・障害者虐待の類型としては、①身体的虐待②ネグレクト③心理的虐待④性的虐待⑤経済的虐待の5つ。</p> <p>・市町村としては、虐待対応の窓口となる防止センターを設置することになっている。小金井市としては、虐待防止法の施行に伴い、9月議会で虐待防止対策支援事業として、虐待防止センターの設置に伴う補正予算を計上し、議決を得た。周知としては、10月15日号の市報へ掲載する他、ホームページで公表している。</p> <p>・今後については、市とセンターで虐待防止と対応のマニュアルを作成し、パンフレットを作成しているところ。案が出来上がったら、自立支援協議会へも示す予定。</p>

2. 議題

(1) 防災・災害対策を考えるために 各委員からの3.11当日の報告

高橋会長	<p>・本日の会議は、出席者11名となり、本協議会は成立。</p> <p>・議題(1)の「防災・災害対策を考えるために」に入る。8月より、災害対策をテーマに協議しているが、第3回目となる本日は、昨年の3.11当日の状況について各委員の立場で報告いただくことになっている。</p> <p>・早速報告へと進めていきたいが、報告の終了時間の目安を確認してから進めたい。後半は、各部会に分かれて今後どのように進めていきたいかを検討したい。今後の予定としては、12月～2月に発達支援をテーマに開催することしか決まっていない。全体会を軸にしながら、部会がどのように絡んでいくのか等、各部会に分かれて内容を話し合う時間を設けたいと思っている。そのため、報告の終了時間を15時20分前後としたい。</p> <p>・資料の順番に沿って進める。資料3の森田(純)委員からお願いしたい。</p>
森田(純)委員	<p>・資料の1～2枚目は、私が作成したもの。3～4枚目は、障害別相談員へ依頼し、記載してもらったものとなっている。</p> <p>・報告のおおよその目安はどのくらいか。</p>
高橋会長	・約10分程度でお願いしたい。
森田(純)委員	・まず、資料3-1から説明する。発災時は、障害者福祉センターの事務室にいた。非常に大きな揺れを感じて、恐怖を感じる程の揺れだったことを記憶している。すぐに情報収集に入った。障害者福祉センターでは、定期的に緑町第四町会と連携し、避難訓練を実施していたため、それに沿って館内の利用者の避難を促した。具体的には、福祉センター南側の駐車スペースの庭の方へと誘導

	<p>し、避難を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺れの強さに不安をあらわにする人、涙ぐむ人、座り込んで動けなくなってしまう人等おり、個別で声かけをするなど対応を行ない、避難誘導した。 ・障害者福祉センターは、市の施設のため、当日の利用はできなくなった。しかし、金曜日は手話サークル等の予定が入っており、その方たちへの説明やそのまま通ってこられた人への対応も行なった。知的障害のある人の中には、急な予定の変更に対する理解が難しく、なかなか帰宅を促せない状況もあった。 ・翌週からは、計画停電の情報や医療機器を利用されている方への情報提供など、個別に対応を行なった。 ・少し経過してからの状況としては、テレビのニュースが災害一色となり、そのことへの反応や、余震に対する不安などから生活のリズムを崩す方などもいた。生活支援や日中一時保護、ショートステイなどの利用等についての相談が増加した。 ・A3の資料（3-2）の説明へ移る。今回の災害で強く感じたことがある。市の計画や手引きがどうなっているのかということを共通認識にしないといけないと感じた。防災計画や手引きの中でこのように記されているということを確認しながら個別事例に応じて話をしなければならなかった。そのような核となる内容をしっかりと共有しておかなければならず、その中で課題となるものはどの部分なのかということを考えられるようにしておく必要がある。 ・地域生活の支援をしていく中で、平常時から発災時を経て次の平常時が来るまではいくつかの段階があるのではないかと思います作成した。表に示した通り、1～10の段階で考えていく必要があると思われる。このように考えた理由として、防災計画や手引きでは、二次避難所まで流れが細かく示されているが、復旧する時にはどのような流れがあるのかという仕組みが必要なのではないかと思います。 ・各家庭や事業所が作る避難のイメージや計画は、発災してから避難所へ行くところまでが示されている場合が多い。障害のある人たちの課題は、そこから先の生活が大きな問題となる場合がある。それぞれの団体でその辺りの検討も必要なのではないかと思います。 ・地域防災計画には、視覚障害者や聴覚障害者への情報提供の配慮が示されているが、避難所運営マニュアルには、具体的な配慮が記載されていない。 ・避難所運営マニュアルが、災害時要援護者名簿で対応を分けているのはよいと感じている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問等あればお願いしたい。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時に市からの指令はあったのか。障害者福祉センターの対応に任せられている形なのか。 ・またその後、市からの連絡は何かあったのか。
森田（純）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉センターの避難訓練誘導マニュアルに沿って対応した。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市への報告義務はないのか。
森田（純）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・役職より適宜報告を上げながら、対応を検討していた。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・あの日は、ちょうど緑センターにいた。恐怖を感じたが車イスから降りることもできず、どうすることもできなかった。センター職員から外へ出るよう指示があり、外へ避難した。緑センターは障害者の施設ではないため、そのマニュアルはなかった。とにかく外へ出ることはなかった。

森田（純）委員	・日頃の訓練が、いかに大事かを痛感した。
高橋会長	・資料 3-2 の災害発生時の課題整理のところに記載されているのは、各障害に合わせた心構えやマニュアル作りが必要ということだった。
馬場委員	・障害者福祉センター自体は、夜何時まで開いていたのか。
森田（純）委員	・17 時まで開いていた。
馬場委員	・その後、緊急で利用する人がいるかもしれないという想定はしていなかったのか。
森田（純）委員	・事業をストップすることなど取り決めがあったのかもしれないが、詳しいことまではわからない。たまたまその時の利用はなかった。17 時までとしていたが、職員は帰ることはできなかった。
高橋会長	・続いて、あじさい会の森田（史）委員から報告をお願いしたい。
森田（史）委員	<p>・資料 4 を参照。精神障害者の家族の立場と職場で関わる障害高齢者についての立場から報告する。</p> <p>・精神に障害のある方々は一時的な動揺はあったものの、普段の生活に戻っていった。しかし、余震のたびにパニックとなり、誰かいないとられないという状況になっている人がいる。今でも、1 時間以上はひとりでは過ごせない状況が続いている。</p> <p>・精神に障害のある人は、いくつか物事が起こっている中でひとつを選択することが困難、パニックになりやすい。特に重度の方については、何らかの支援が必要。</p> <p>・課題としては、精神に障害のある人も要援護者として登録することが必要。</p> <p>・薬を持ち出すことが困難になる。それにより、症状の悪化も考えられる。医薬品の早期確保は必要。</p> <p>・精神に障害のある人は、気持ちが揺れ動きやすいので、一時避難所から福祉避難所となる二次避難所への避難も考えておく必要がある。</p> <p>・高齢障害者の問題について報告する。当日はちょうど介護保険の認定調査を実施している際に大きな揺れを感じた。身の危険を感じ、調査対象者に布団をかぶせ安全を確保した。</p> <p>・事務所に戻って、まず一人暮らしの方々に電話を入れた。出ない方のところへは直接安否確認しに行った。</p> <p>・ケアマネージャーやヘルパーは、週のうち何回かは利用者の自宅へ訪問している。その家の状況を把握しているため、震災に備える支援も含めた対策を考える必要がある。</p> <p>・停電への対策も必要。酸素吸入の電源を確保することができない場合は、携帯ボンベを使用し、医療救護所や避難所へ避難する。医療救護所や避難所に酸素吸入等、必要最小限の緊急医療機器を確保する必要がある。これは命にかかわることであるため、非常に重要だと感じる。</p>
高橋会長	<p>・質問等あればお願いしたい。</p> <p>・ただいまの報告のポイントは、精神障害者の要援護者の登録と医療器具の確保、酸素吸入の電源確保が必要という部分だった。</p>
秦委員	・精神に障害のある人にとって、薬は非常に大事なことであるが、日頃からお薬手帳は持っているのか。
森田（史）委員	・災害発生時は気持ちが動揺しているため、避難する時にお薬手帳を自宅から持ち出せるかどうか疑問である。

高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、中村委員より報告をお願いしたい。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行が危険な方に対しては、車イスを用意し様子を見て避難した。その後、戻るかどうか迷ったが、一回揺れがおさまった段階で建物内へ戻り、再度揺れが起こり、また外へ避難するという行動になってしまった。その後は、どこかへ動くことが無理だと判断し、庭に留まった。 ・ 時間が早かったこともあり、家族との電話連絡ができなかった。幸い車を動かすことができたので、車で家族の安否を確認することも含め、利用者を送りとどけた。渋滞にも巻き込まれることなく無事に送迎できた。 ・ その後、保護者へは、連絡が取れない場合もあるため、施設に留まることを徹底し伝えた。 ・ 外へ避難するとなると、四方八方散らばる利用者もいて危険。建物が崩壊するようなことでなければ、施設で待機する方がよいと感じた。 ・ 薬について、次の日からかばんの中にいれて持ち歩くように指示した。災害伝言ダイヤルの練習も行なった。備蓄品の整理も行なった。 ・ 建物が倒壊するような時には、この職員数では、とても逃げられないという状況がある。そのことは課題となっている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問等あればお願いしたい。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 府中市の身体障害者の作業所でも、マンションの 11 階の自宅へ帰そうとしたが、車イスのため、エレベーターが使用できない状況では、自宅へ帰ることができず、親が降りてきて、近くの文化センターへ直接交渉し、泊めてもらったという話を聞いた。 ・ 作業所で待機することも必要だが、それなりの準備も必要になる。その準備をしようとする費用もかかる。その費用の捻出も課題。対策は、運営と伴っているため、厳しい状況と思われる。 ・ 生活実習所は、東京都が建設したものであるため、それなりの耐震構造ではあると思う。生活実習所へいる方が安全だと思う。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動かない方がよいとは思いますが、うろたえてしまう状況でもあった。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の方へ伺いたい。利用者が十分ではない施設でやむなく宿泊するような状況となった際、そこでのケガや亡くなった場合の責任の所在や保険の適応などはどのようにしているのか。 ・ 天災だから仕方ないという状況もあるとは思いますが、その後公金の施設で起きた状況に対し、責任問題をどのように考えているのか。その対応などについて、何か議論はなされているのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ そこまでは細かく議論はなされていないと思う。保険での対応だけとなってしまおうと思われる。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのような議論はあまり公にはなされないと思う。しかし、実際に問題が起きてから、どうしようかと考えるのでは遅い。この場で考えることではないのかもしれないが、市の防災関係の方がお越し頂いた際には、聞いてみたいところ。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題とさせていただく。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鈴木委員より報告をお願いしたい。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初に配布した資料は、印刷が欠けていた部分があるため、後で配布した資料 6 を参照していただきたい。 ・ 小さい子供のいる母親の立場からの意見として報告する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・3.11 当日は、駅前で震災にあつて、上の子供が幼稚園、下の子どもは保育園に預けている状況だった。夫は会社。上の子供を自転車で迎えに行ったら、園庭にテントが設置されており、その中に毛布にくるまれた子供たちがいた。バス通園のため、厚手の上着は着せていなかったため、長女の体は冷えきっていた。自転車で長女を乗せて、保育園へ迎えに行った。保育園に行くと、子供たちは落ち着いて避難。その後自宅に戻った。 ・テレビや携帯などから聞こえる緊急地震速報の音に子供達は動揺。パニック状態に近い状況だった。情報を遮断することにはなったが、刺激になるテレビを録画ビデオに切り替え、子供たちが落ち着けることを重視することとし、気持ちを切り替えた。自分自身も動揺はあったが、徐々に平静を取り戻した。 ・自宅近くに大きな公園があり、そこに近所の人たちが集まり、ラジオや携帯を持って、顔見知りの団地の方々同士で情報交換していた。そこに避難した後は、第一避難場所の小金井公園となるが、自宅からは第二小学校が近く、そこへ避難する形をとった。 ・火災などもし起きた場合は、第二小学校の避難所へ行くことになる。しかし道の状態や何かのきっかけで迷子になってしまった場合や、二人の子供を連れて動く体力を考えると、無駄な動きをする余裕はなかった。その点で心配はある。 ・災害発生時に想定されること3つあげた(①～③)。 ・課題整理として、災害発生時①～⑥を挙げた。二次避難以降のところでは、①～③を挙げた。 ・子供達へは、なるべく薬の名前を覚えておくよう話をしている。大人でも子供でも、覚えておけることは覚えておく必要がある。覚えられることは覚えておこうと教育をしているところ。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問等お願いしたい。 ・子供や障害のある人の共通した身分証明となるようなものは不可欠。子供が親と離れた場合や、自身のことをうまく説明できない障害のある人もいる。しかるべき時にすぐに見せられるようなものが必要。ゴソゴソと探して出すようでは、役に立たない。課長がつけている名札のようなもので構わないと思うが、小金井市民がいざとなったら首から下げて避難するようなものが必要なのではないか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者施策の一環で東京都が平成24年度から平成26年度の3か年をかけて、ヘルプカードを作成する。表紙は、東京都が作成し、区市町村共通。裏面は各自治体独自に作成するという指針が示された。 ・数週間前に東京都のガイドラインができたところ。 ・小金井市障害福祉課としては、来年度予算措置を検討している。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人に限定しないで、子供等も含めて検討してほしい。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、障害者施策として東京都が取り組みを行なう。その後、どのように拡大していくのかということについては、次の課題としたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から含んで考えていかないと広がらないのではないかな。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間でルールを作成することが非常に難しい状況もある。まずは、小さいところからはじめていきたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプカードぐらいであれば、すぐにできるのではないかな。各家庭に配布すれば済む話なのではないかなと思う。

堀池委員	・市民に対してのヘルプカードの普及啓発など、いろいろと考慮することがある。後々実現していきたいとは思っている。
高橋会長	・3部7課からぜひ取り組みを始めてほしい。
秦委員	・報告を伺い、鈴木委員の落ち着いた行動は素晴らしいと感じた。 ・最近のお母さんたちは、おんぶ紐は皆さん持っているものなのか。
鈴木委員	・最近の紐はだっこもおんぶもできるようになっているが、だっこの方が多いと思う。最近の母親は、いざ避難となった時におんぶという発想は出ないと思われる。
高橋会長	・おんぶされると体温を感じて温かい。子供の精神面の安定にもつながる。
秦委員	・市の保健師を通して、災害時はおんぶするというのを伝えたいと思う。
鈴木委員	・実際、おんぶをしようとする腕力も必要。不安定で怖さも感じる。そのため、だっこが多くなってしまう。
中村委員	・施設では、手が足りなくなるため、おんぶ紐は用意している。手があくことが利点。
鈴木委員	・若い世代の人たちは、知恵がない。あるのが当たり前の生活だったり、核家族化していることもあり、いざという時に役立つ知恵がない。
秦委員	・おんぶ紐を使用した方が、ベビーカーへ乗せるより、運動能力も育つと言われている。
鈴木委員	・今のお母さんは体力がない。火起こしもそうだが、ああいう状況下では知恵が必要。知っている人は、サラダオイルとロープで、ろうそくを作っている方もいた。 ・自分のあるものを提供して物物交換するなどの、地域のつながりを生かしながら、お互いに助け合うという人もいた。
森田（史）委員	・安否確認は、非常に重要。家族会の中にも、遠方にいた家族に携帯で連絡をしたが通じなかったため、非常に不安になった人がいる。安否の確認が取れるまで、心配で動揺は大きい。いかに安否を確認するかということが重要。
高橋会長	・馬場委員からの報告をお願いしたい。
馬場委員	・配布した資料を参照してほしい。親の会で作業所を2か所運営しているため、そちらのケースについて紹介する。 ・ちょうど大宮鉄道博物館に利用者と見学へ行った帰りに震災にあった。電車が止まり、朝まで大宮駅で一泊することになった。利用者については、大きな混乱はなかった。駅から退去するよう指示があったが、避難所にいくより駅にとどまることを最善と考え、駅員と交渉。特例として、妊婦・高齢者の数人と新幹線の待合室で一晩を明かした。 ・家族に安全に避難していること、交通機関が回復しないと帰れないことを連絡。連絡がつかない家庭については、小金井に残っている職員や同じ法人内の職員が手分けして個別に訪問した。 ・一番問題だったのは、てんかん発作の薬の準備がなかったこと。当然、このような状況になったため、持参すべきだったという反省は出ている。 ・子供たちをどのような形で迎えに行くかということが問題となった。体力を消耗している子供たちが運行の安定しない電車を乗り継いで帰ってくるもののリスクは大きく、小金井からバスを回せないか社会福祉協議会へ連絡したり、民間のバス会社をあたった。しかし、どこも断られてしまった。 ・翌日、早朝4時半に事業所の車2台と保護者の車5台で迎えに行った。明け

	<p>方は比較的道路がすいていたため、朝の 9 時には作業所へ戻ってくることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点としては、どういう状況下で震災にあうかわからない。電車に乗っていた場合を考えると、どのような結果になっていたのかわからない。日帰りであったとしても、薬の準備は必要。連絡には、公衆電話が有効だった。今回は、迎えに行くことができたが、首都直下型の震災の時には難しい状況が想定される。そのような状況となった場合に行政がどのように対応してくれるのか。小金井の行政なのか、それとも出先の行政なのか。その辺りについての想定はできていない。反対に、小金井に来ている他の団体への支援はどのようにしているのか。 ・2つ目のケース。作業所から帰宅し、食器棚から器等が落下、ガラス片が飛散をしていた。帰宅に付き添ったヘルパーさんが機転をきかし、室内の安全を確認し、掃除をしてくれた。電話だけの安否確認だけで本当によいのか、室内まで入り込むことも必要なのではないかとということも出ている。 ・親の会の会員から、障害者の本人の住所が小金井市にないため、週末など小金井に戻ってきているとき、震災に遭遇すると要援護者網からもれる。対応を検討してほしいということだった。 ・障害者の特性から、集団になじめない障害者がいる。東北の震災でも同様の状況は聞いている。避難所に行かないと救援物資はもらえない。何らかの支給ルートを確認する必要がある。現段階では、小金井市でのそのようなルートは決まっていないため、親の会として、地区別でお互いの安否確認や物資の供給ルートを確認できないか、今年度より取り組みを始めた。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・バスが出なかったのは、どのような理由からなのか。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会へ電話をしたが、運転手の都合なのか受けてもらえなかった。民間については、お金の問題だったのかもしれない。 ・障害者福祉センターのバスを配車してもらえるとよかったとも感じる。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「みどり号」は空いていることはほとんどない。急にお願いしても空いていない。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・震災翌日は、「太陽のひろば」で使用予定だった。震災により、その行事が中止となり、バスは使わないはずだった。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような状況の時は、バスの運行は休むはずだから、市が関係する所で所有しているバスをどういう形で提供するか、物資を運ぶなども含め、災害対策課の方で対応策を話し合ってもらいたい。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・移動中に震災にあうと、恐怖を感じるだろうと思う。親もなかなか連絡がとれないことで不安は募る。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような時にヘルプカードが役に立つ。早急に確立してもらうことが必要。「手をつなぐ親の会」で作成している障害者カードなどを活用できるような携行の仕方などを考える必要がある。 ・自主通学の子供たちの把握も必要。時間帯によっては登下校の時間帯の場合もある。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・作業所にいる時間帯に震災が起きた場合は、安否確認がしやすい。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校後や親が帰るまでのマニュアルについては、それぞれで作成しておく必要がある。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に、秦委員より報告をお願いしたい。

秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料参照。今回の震災を受けて、保健師のためのポケットマニュアルを作成した。ある被災地では、ベテランの保健師の 8 人中 6 名が亡くなり、残った 2 名は新人と 2 年目の保健師だったという状況があった。若い職員にも対応ができるようにマニュアルを作成した。 ・これまでの震災全てに派遣されたが、今回は放射能漏れという事態もあり、これまでとは異なる状況もあった。 ・今回の東日本大震災における東京都福祉保健局保健対策課からの派遣実績としては、保健師チーム合計 111 班 382 名が福島・宮城・岩手へ派遣された。公衆衛生チーム 57 名が石巻保健所へ応援に行った。 ・今回府中保健所は、自治体派遣として、被災地住民および職員に対する直接的支援を主とした活動を行ってきた。 ・被災地保健所となれば、多摩府中保健所は 6 市を管轄しているため、それぞれの被害状況を確認し、地区担当ごとに支援することになる。 ・「職員の標準行動」を参照。全ての職員は、所轄へ連絡を入れることになっている。これまでは、東京都も震度 6 以上で自主参集となっていたが、各市震度 5 以上となっている流れがある。 ・「初動時の保健師活動」を参照。保健所対策本部が設置される。保健師は、日頃専門職として、各部へ配置が分散されている。非常時には、その保健師が一手に招集される。そこで保健師統括が配置され、本部との連絡調整にあたり、そこからそれぞれの保健師が専門性を生かして活動にあたる。具体的には、本部活動として、統括や調整を行なう。市町村連絡調整・活動支援として、巡回健康相談や避難所管理等を行なう。 ・東日本大震災の時は、2 日目に先遣隊として、現地の状況を把握。その後の部隊の活動についての確認を行なって帰ってくる。 ・各市の要請に応じて、避難所へ行く。各被災された自治体から厚生労働省へ避難要請が入る。厚生労働省がそれを集約し、各都道府県に指令を出す。 ・最初の避難要請が大事。避難要請の連絡が遅れた市町村には、遅れたタイミングで応援が入ったと聞いている。 ・避難所管理は、最初の立ち上げが肝心。 ・避難できてない人がいないかどうか地図を持って、一軒一軒あたる活動も行った。
高橋会長	・質問等お願いしたい。
森田（純）委員	・小金井市が被災した場合、現在の担当の第二係の小金井担当保健師が担当となるのか。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはそうなるが、状況によって異なる。集まった段階で決めたい。 ・小金井市の地区担当は、3 名。
高橋会長	・小金井の担当は何名なのか。
秦委員	・3 名。
高橋会長	・3 名の方が担当するということか。
秦委員	・その担当の 3 名が小金井を担当するかどうかはわからない。状況によっては、他の市への応援となる場合もある。
矢野副会長	・保健師は総勢何名いるのか。
秦委員	・6 市合わせて 26 名。
矢野副会長	・26 名で 6 市を担当するというのは大変なこと。

秦委員	・管轄内では、26 名であるが、全国から応援は入る。
高橋会長	・矢野副会長より、報告をお願いしたい。
矢野副会長	<p>・前回の会議で報告した府中市で使用されている災害時用の救急医療情報キットの実物を持参した。資料に写真が載っている。</p> <p>・当初は、高齢者支援で作成されたが、親の会や作業所等が障害のある人にも同じようにこのキットを活用してほしいと要望し、障害福祉課も一緒に活用しようという形となった。</p> <p>・資料にある救急医療情報キット利用の流れを見ると、どのような流れになっていくのかわかるようになっている。</p> <p>・小金井市でもぜひ活用してほしい。</p>
馬場委員	・希望者には全員配布されるのか。
矢野副会長	・配布される。
高橋会長	・現段階で課題となっている状況はあるのか。
矢野副会長	<p>・関わっている作業所では、6 月から取り組みを始めた。まだ全員が記入したわけではない。参考で市から提供されたものを持参した。</p> <p>・小金井市から直接府中市へ問い合わせをしてみしてほしい。</p>
堀池委員	<p>・このマニュアルが平成 22 年 5 月発行となっている状況を見ると、平成 21 年には検討がなされていたと思われる。</p> <p>・地域福祉課を担当していた頃、議会で医療情報キットを導入してはどうかという意見はあがった。その段階では、検討するという回答を行なった。他市からの情報収集を行ったが、行政で取り組みを行なっているのはまだ何市かという状況だった。</p> <p>・ヘルプカードは、3 年間で必ず実施しなければならないこと。障害者施策として実施する。どのように広げていくかということも含め、福祉保健部としては今後の方向性を考えているところ。</p>
矢野副会長	・府中市の場合は、精神障害者の活動も活発。作業所や支援センターもあるため、もしかすると精神障害者の人もこのキットを活用しているのかもしれないが、どの辺りの範囲まで広げているのかは問い合わせをお願いしたい。
堀池委員	・ヘルプカードは、外出した時活用するもの。救急キットは、居宅での活用する方法というように分けておくものと考えるべき。
矢野副会長	・これを出せば、民生委員へ連絡が入ることになっている。
高橋会長	・素晴らしいアイデアだと思う。
堀池委員	・統計としても冷蔵庫が一番壊れにくいという結果が出ている。
高橋会長	<p>・小金井市でもぜひ進めてほしい。</p> <p>・本日の報告をどのようにまとめていくかは、まだ考えられてはいない状況。</p> <p>・時間の関係で 20 分少々となるが、発達支援と相談支援の部会に分かれて議論をする時間としたい。</p> <p>・発達支援は、高橋会長を中心に。</p> <p>・相談支援は、矢野副会長を中心に。</p> <p>・早速、グループに分かれて進めて行く。</p>
	～分科会に分かれて検討～
高橋会長	・終了の時間となった。話し合ったことについて、報告をお願いしたい。まず、相談支援部会の矢野副会長をお願いしたい。
矢野副会長	・「相談支援ネットワークを考える」資料を参照しながら検討した。細かい日程

	については、今後詰めていく予定。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12 月は、小金井市保育課の発達支援係、ピノキオ幼稚園の保護者、ひまわりママへお願いする。交通費が出ないため、その辺りの交渉も必要。 ・ 1 月は、小金井市特別支援学校の保護者等を検討している。 ・ 2 月は、卒後、生活支援、発達支援についての協議を検討している。 ・ 行政からの報告となると障害福祉課になるため、小金井市就労支援センターのボーバル委員に発言してもらおう。矢野副会長からもお願いしたい。 ・ 作業所等へ通っている親御さんや東京学芸大学や当事者の家族の方にお越しいただく形も検討している。このような形で進めていきたいと思っている。 ・ 次回の骨格については、この後の事務局で打ち合わせをして決定したいと思っている。次回は、防災のまとめの会となる。本日は、相談する時間がないため、事務局で相談し、決定後にお知らせする。

(2) その他

一同	・ 特になし。
----	---------

3. 事務連絡

次回の開催について

高橋会長	・ 事務局よりお願いしたい。
事務局 (藤井係長)	・ 次回の会議は、11 月 21 日 (水) の 14 : 00~16 : 00。場所は、前原暫定集会施設 A 会議室。
高橋会長	・ 本日の会議は、これにて終了する。

以上